

# ビデオ 通信

2026年  
6月15日(月)

No.4966

70th  
since 1956

月・木曜日発行  
月額：¥11,000(税込：¥11,880)  
発行：飯澤 剛  
編集：齋藤 浩一

**ユニ通信社**

〒238-0048  
神奈川県横須賀市安針台17-3-101  
TEL：046-827-7421  
FAX：046-8277422  
E-mail：VT@uni-press.net

TREE Digital Studio

## スクリーンカラーグレーディングルーム「SCR-331」を開設

映画・長尺作品への対応を強化、将来を見据えて4Kレーザーを導入  
映画制作工程を支える環境を整備



(株) TREE Digital Studio はこのほど、同社初のスクリーンカラーグレーディングルーム「SCR-331」を、DIGITAL GARDEN 事業部としては新たな拠点となる南麻布渋谷ビル3階に開設した。「SCR-331」は、同社がCMやMVに加え、映画や配信ドラマなど長尺作品への対応を強化するために整備したもので、Barco社製4KレーザープロジェクターとStewart社製のスクリーン

を採用し、映画館に近い視聴環境を構築。初号試写室ではなく「映画制作工程を支える環境」をコンセプトとしている。なお、「SCR-331」の開設により、同社のカラーグレーディングルーム体制は、MTRビルの「Bay-204」「Bay-205」「Bay-304」および今年1月にBaselightを導入した「Bay-301」と合わせて5室体制となった。

### “映画を手掛けていきたい”という強い想い

「SCR-331」を開設した経緯について、カラリストの平林裕大氏は「計画自体は昨年の夏頃から徐々に動き出しました。TREE Digital Studioでは近年、Netflix作品をはじめとした長尺案件が増加しています。従来は映画案件に対応する際、IMAGICA EMSや東宝スタジオなどに出向き、スクリーン環境を借りる形でグレーディングを行ってききましたが、今後さらに映画分野へ踏み込んでいくためには、自社内にスクリーン環境を持つ必要があると考えました。会社全体として“映画を手掛けていきたい”という想いが強かったですし、DIGITAL GARDEN事業部としても次に挑戦する領域を考えた時、やはり“映画”という話になりました」と説明する。

国内でスクリーンタイプのグレーディングルームを持つポストプロダクションは限られており、TREE Digital Studioも映画制作における知見やノウハウが少なかったため、IMAGICA EMSの協力を受けながら今回のスタジオ構築を進めてきたという。

## あえて“初号試写室”は目指さない

「SCR-331」は、同社の別部署が使用していたスペースを活用して構築したもので、十分な横幅を確保しつつ、限られた空間の中でもスクリーン環境として成立する最適なサイズを追求したという。〈高さ方向がかなり厳しく、もう少し欲しかったというのが本音です。ただ、スクリーンタイプを作る上で最低限必要なサイズ感は確保できたと思っています〉と平林氏。

同ルームの最大の特徴は、あえて“初号試写室”を目指していないこと。完成作品の最終チェックを行う場ではなく、グレーディングやVFX制作の途中段階で、スクリーンによる確認を可能にする“制作工程寄り”のルームとして設計している。〈最終的な初号試写は、映画館環境を持つIMAGICA EMSさんや東宝スタジオさんなどで行う形になります。当社はまず、その前段階となる“仕込み”を行う場所としてこの部屋を位置付けています〉（平林氏）

同フロアにはVFXを担当するLUDENS事業部も入居しており、ディスプレイ上で制作した映像をスクリーン環境で確認できる体制も整えている。〈VFXアーティストがディスプレイで作業したものを、その場でスクリーン確認できるメリットは大きいと思います。なるべく扱いやすくなるよう、作業者目線で設計しました〉（平林氏）

## 映画館に近い映像再現を重視

映写設備には、Barco社製4Kレーザープロジェクター「SP4K-12C」（写真→）を採用した。現在のシネマ用途ではキセノンランプ方式が主流だが、将来的な流れを見据えて、あえてレーザー方式を選択したという。〈今後、キセノンランプは徐々になくなっていくと言われています。新規参入するのであれば、最初から次の時代を見据えた環境を導入したいと考えました〉（平林氏）



スクリーンには、スクリーンメーカーとして世界で唯一アカデミー科学技術賞を受賞しているStewart社製を採用し、映画館に近い映像再現を重視した構成となっている。映像優先の設計を徹底しているが、音響についても5.1chに対応している。

カラリストアシスタントで、主にシステムやカラーサイエンスを担当する田口 暁氏は〈従来、スクリーンの裏側にスピーカーが設置されるため、微細な穴の開いたスクリーンを採用するのが一般的ですが、「SCR-331」ではスピーカーをスクリーン下に設置できるため、穴の開いていないタイプを採用しています。その分、映像をより綺麗な状態で確認することができるので、映像制作により特化した環境になっています〉と説明する。

スクリーンサイズは、SCOPE時で3.640 × 1.523m (2.39:1)、FLAT時で2.818 × 1.523m (1.85:1)。投影距離は約9m、メイン卓からスクリーンまでは約7mを確保した。〈建物の構造上、扉位置を変更できないという制約がある中で、可能な限り距離を確保しました。狭いスペースの中でどれだけ距離を取れるかを追求し、限界まで詰めた結果この位置になりました〉（平林氏）

## メイン卓に“昇降デスク”を採用

メイン卓にはDaVinci Resolve Advanced Panelを設置しており、将来的にはBaselightのコント

ロールパネル設置にも対応できる設計とした。

システムは Mac Studio をベースに構築し、96TB（実効 84TB）の Thunderbolt 接続ストレージを導入した。マスターモニターとしてソニー「BVM-HX3110」、クライアントモニターにはブラビア「XR A95K」も用意しており、HDR 制作にも対応する。〈国内ではまだ HDR 需要はそこまで多くありませんが、受け入れ体制を持っていることが重要だと考えています。将来的には HDR マスターから各フォーマットへ展開していく流れも増えていくのではないかと考えています〉（平林氏）



さらに、大きな特徴はカラーグレーディング卓としては珍しい“昇降デスク”（←写真）を採用した点。平林氏は〈スタッフごとに身長が違いますし、特に女性スタッフからは強い要望がありました。160cm 以下のスタッフであれば、立ったまま作業することもできます。映画案件は作業が長時間になることも多いため、身体的負担の軽減も重要視しました〉とする。

壁面は可能な限りニュートラルグレーに近づけ、反射を抑制するなど、空間設計にも細かい配慮を施している。

### 長尺作品の“仕込み部屋”としての活用も

同社ではこれまで、映画や配信ドラマ案件については MTR ビルにあるグレーディングルーム「Bay-204」「Bay-205」「Bay-304」および今年 1 月に Baselight を導入した「Bay-301」で対応してきたが、部屋数が限られていることから、長尺案件の際には運用の負荷が高まっていた。

今回の「SCR-331」の開設によって、長尺作品の“仕込み部屋”としても機能させる。

平林氏は〈4K レーザープロジェクターを導入したものの、実際の DCP は 2K が多いという現状もあります。ただ、HDR で制作しておくことには意味があります。OTT 向け HDR マスターを先に作り、そこからシネマ用ヘトーンマッピングする流れも今後は増えていくと思います〉とする。

また、映画案件が来た際には、撮影現場にも関わっていききたいという。〈ライブグレーディングだけでなく、現場でオフライン編集用素材を作るようなワークフローにも広げていきたい〉（平林氏）

### 多くの経験を吸収してレベルアップしていきたい

平林氏は、新しい「SCR-331」と今後のカラーグレーディング業務について、〈私たちだけではまだ分からないことも多いです、外部のカラリストの方々にもぜひ使っていただき、様々なことを教えていただければと思っています。これまでよりさらに活動の幅を広げ、多くの経験を吸収してレベルアップしていきたい。その思いが詰まったグレーディングルームだと考えています〉と話している。



平林裕大氏（左）と田口 暁氏

◇ TREE Digital Studio <https://www.tdsi.co.jp/>

SCR-331 東京都港区南麻布 4-11-30 南麻布渋谷ビル 3F